

平成17年度 大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会
第2回森林生態系保全再生手法検討ワーキンググループ
議事概要

◆日 時 平成18年1月27日(金) 15:30~17:30

◆場 所 春日野荘 すずらんの間

◆出席者

<委員>

井上 龍一	奈良教育大学附属小学校 教諭
木佐貫 博光	三重大学 助教授
小船 武司	日本野鳥の会奈良支部 支部長
佐久間 大輔	大阪市立自然史博物館 学芸員
高田 研一	高田森林緑地研究所 所長
日野 輝明	独立行政法人森林総合研究所関西支所野生鳥獣類管理チーム長
日比 伸子	橿原市昆虫館 学芸員
前田 喜四雄	奈良教育大学教育学部附属自然環境教育センター 教授
村上 興正	元京都大学 講師
横田 岳人	龍谷大学 講師

<事務局>

環境省近畿地方環境事務所 野生生物課 課長	徳田 裕之
国立公園・保全整備課 課長補佐	小林 浩二
国立公園・保全整備課	石川 拓哉
	福原 裕
同 吉野自然保護官事務所 自然保護官	熊代 哲
(財) 自然環境研究センター	永津 雅人
	黒崎 敏文
	荒木 良太
	岸本 年郎
(株) 環境総合テクノス	木村 博司
	樋口 高志
	保延 香代
中日本航空(株)	加藤 悟
	吉田 夏樹

◆議 事

- (1) 平成17年度調査・事業のとりまとめについて
- (2) 次年度以降の調査・事業内容について

◆議事概要

○資料に基づき、平成17年度調査・事業のとりまとめ等について事務局より説明。

○委員等からの主な意見等

(植物調査について)

- ・ 実証実験に関する調査については、「地掻き」をやり直した経緯があり、今年度のみの調査結果をもって評価すべきではない。ある程度の傾向が出てきた段階で結果を整理し評価を行うべき。
- ・ 同じく寒冷紗の実験についても、今年度のみの調査結果では評価できない。今年度は、調査方法について説明すべき(寒冷紗を設置するに至った理由等について)。
- ・ 菌根菌形成ポテンシャル調査については、菌根の感染源をどの程度有しているのかについて把握するため、土壌を採取して室内実験をしてみてもどうか。
- ・ 同調査の結果から、表層土除去による実生生育の効果を評価することはできないか。
- ・ モニタリング調査と実証実験等については、それぞれ分けて資料を作成すべき。
- ・ 個々の調査結果に関しては、専門的な意見等について事前にヒアリングを実施し、整理しておくべき。

(動物調査について)

- ・ 部会には、調査結果が明確になっているものの他、トピック的な情報を報告すべき。植生タイプに着目した結果の整理も必要。
- ・ 昆虫調査を3年間に延長した理由を説明すべき。
- ・ 将来的に「大台ヶ原の特徴」を示すことのできるような調査とすべき。
- ・ 地道な調査は、自然再生における初期状況を数的に捉えることのできる非常に重要なものである。

○トウヒとウラジロモミの年輪解析等について(日野委員より)

- ・ 近年(1980～)、剥皮痕跡の頻度が多く確認され、同時に肥大成長している傾向がある。

(委員からの意見)

- ・ 剥皮痕跡の頻度の年変化は分かりやすい。
- ・ 資料を分かりやすく整理し、部会に報告すべき。

○蘚苔類調査結果速報(佐久間委員より)

- ・ 種数は増加しているか横ばいである。
- ・ 種類については、乾燥に強いものが増加している。
- ・ 今回の結果からは、酸性雨の影響が生じているとは言えない(酸性雨による影響としては、被度の減少及び種数の減少が現れる)。

[文責：近畿地方環境事務所]